

## 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	在宅難病患者（児）・家族の安心を支える総合 ICT 支援ネットの輪
事業主体 (連絡先)	NPO 法人 e-MADO 病気のこどもの総合ケアネット 松本市旭 3-1-1 信州大学医学部附属病院内 0263-38-7156 office-takizawa@e-mado.org
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,596,010 円（うち、支援金 2,697,000 円）

## 事業内容

これまで松本・安曇野地域 4 医療施設、松本市医師会の合意を得て難病患者家族と医師、医療者をつなぐ ICT 輪作りのための調査、セミナーを行ってきたが 2013 年度はこれを拡張し、家族会などの横の連携を図るネットシステムを運用した

医師、医療者・患者/家族から構成されるチームメンバーがタブレット端末により、診療・在宅患者の状態を共有し、テレビ会議や電子掲示板連絡機能によって高度な連携の輪を作るため- ①参加者全員がイベントや、福祉関係の情報共有を行うための連携ソフトウェア、②医師-患者・家族のコミュニケーションソフト、③心電図など生体情報を遠隔モニタリングし在宅患者・家族を見守るソフトを開発した(図左上-ソフトの 1 画面、右上-利用している難病患者の例)。

セミナー/市民公開講座 チームが行う在宅ケアのメリットを公開し、医療者やボランティアの育成を推進するためのセミナー(岡谷市(図左中)、飯田市(図右中)、福祉機器展示会を含む)、難病患者在宅ケアの啓蒙(図左下)、難病患者・家族間の輪を広げるイベントを行った(図右下)。



## 事業効果

ICT を利用した在宅患者ケアを実施し、難病患者・家族の安心感の向上やストレス軽減に役立てた。遠隔カメラによる見守り、医師と患者とのコミュニケーション向上と情報共有、専門医や看護師による市民公開講座による啓蒙と人材育成を行い、過酷な在宅療養環境にある患者・家族への支援に効果が得られた。

## 今後の取り組み

在宅難病患者とその家族への ICT による支援は、長期的な視点での対応が必要である。国の重要施策でもある在宅療養推進の方針とも併せ、ICT を活用した次世代の在宅療養の推進に向け継続性のある事業として発展させてゆきたい。

## 1 自己評価（事業実施率） 【A】

## 【目標・ねらい】

- ICT による在宅難病患者・家族支援ネット
- 在宅患者みまもりとコミュニケーション法の充実
- 医師・看護師・リハビリ・患者情報共有
- セミナー/市民公開講座による在宅ケアの必要性啓蒙と人材育成

## 2 自己評価（事業効果） 【B】